

令和元年度 第3回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

開催日及び場所	令和元年11月25日(月) 金沢市役所 第1委員会室		
委員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 本間 学(金沢大学准教授) 委員 西村 督(金沢工業大学教授) 委員 栗田 真人(弁護士)		
次第	1 開会 2 審議案件 (1) 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等について ア 平成31年4月1日から令和元年10月31日までに係る本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について イ 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について (2) 工事成績評点の入札参加資格要件での活用について (3) 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について (平成31年4月1日から令和元年9月30日) 3 閉会		
抽出案件	5件		
工事	制約付き一般競争入札	2件	・ 令和元年度 城北水質管理センター第2水処理塩素混和池耐震補強工事 ・ 食肉衛生検査所空調設備取替工事(第2期)
	随意契約	1件	・ 金沢21世紀美術館展示室等調光制御システム改修工事
委託	制約付き一般競争入札	1件	・ 大浦町ほか1町地内独立水管橋耐震診断業務委託
	指名競争入札	1件	・ 南小立野小学校ほか4校煙道改修工事実施設計業務委託
審議内容	別紙のとおり		
委員会による報告 又は意見の具申	令和元年度第2四半期の発注工事等に係る入札・契約手続きの運用については、適正に行われていると判断する。		

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
金沢市総務局監理課 工事契約係
電話:076-220-2101

委員からの意見は、概ね次のとおりであった。

工事及び委託業務の業者選考等が適正に行われていることを確認した。

今年度も引き続き最低制限価格と同額による落札案件は多いものの、最低制限価格の設定範囲を引き上げたことで、より積算能力の高い事業者による競争性が確保されており、本市の入札契約制度に大きな問題点ないと考えます。

今後とも、国や県の動向も注視し、制度の検証を続けるとともに適時・適切に対応して欲しい。

また、現在建設業では、将来の担い手確保に向けた働き方改革の促進と生産性向上が喫緊の課題であることから、本市の入札契約制度の中でこれらを後押しできるものがあれば積極的に取り組んでほしい。

意見の詳細は、次のとおり。

質 疑 ・ 意 見	応 答
<p>1 工事・委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等</p> <p>○ 委託業務に係る業務成績評定について、平均評点が上がっているが、この理由は。</p>	<p>・ 相対的に点数の高い測量業務の件数が多くなったことに加え、例年に比べて低かった昨年度の平均評点との差が現れた結果と考えている。</p>
<p>2 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について</p> <p>令和元年度 城北水質管理センター第2水処理塩素混和池耐震補強工事</p> <p>○ 入札に参加した5者のうち3者が最低制限価格付近で入札しており、業者の積算精度の高さがうかがえるが、この3者が過去に本施設で別の工事に携わっていた経緯はあるのか。</p> <p>食肉衛生検査所空調設備取替工事（第2期）</p> <p>○ 最低制限価格付近に入札が集中している上、最低制限価格未満の失格者が4者となっており、極めて競争が激しくなっている。今年度からの最低制限価格の設定範囲引き上げの影響が出た顕著な例と見られるが、この結果をどう考えるか。</p> <p>金沢21世紀美術館展示室等調光制御システム改修工事</p> <p>○ 随意契約の場合、落札率が高くなる傾向にあると認識しているが、本件の落札率は91%と比較的低くなっている。この要因についてどのように考えているか。</p> <p>大浦町ほか1町地内独立水管橋耐震診断業務委託</p> <p>○ 競争性が働き、適正な入札結果になっていると思われる。</p> <p>南小立野小学校ほか4校煙道改修工事実施設計業務委託</p> <p>○ 指名競争入札の案件で、9者指名のうち7者が予定価格と同額で応札しており、落札に消極的であるように見受けられるが、業務の特性上、敬遠される要素があるのか。</p>	<p>・ 過去10年間の実績を確認したが、当該施設における工事の実績はない。</p> <p>・ 指摘のとおり、最低制限価格の設定範囲の見直しにより競争性が確保された典型的な例と考えている。見直しは5月公告分から実施しており、半年弱の経過しか見ていないため、今後も継続的に入札状況を注視していきたい。</p> <p>・ 定期修繕工事の場合、一定の年数ごとに実施されるなど、参考となる前回結果を踏まえることができるが、本工事の対象機器は、美術館の開館以来初めて改修を行うものであり、定期の修繕工事とは状況が異なることから、比較的低い価格での入札に至ったのではないかと推察している。</p> <p>・ 本業務では、アスベスト等の有害物質を取り扱う内容となっていることもあり、消極的な応札という結果につながったのではないかと推察している。過去の同種の設計業務においても同様の傾向が見られ、業務内容に起因した特殊な事例であると考えている。</p>